

# 気象衛星「ひまわり」を活用した海況状況監視システムの実証実験 Verification of an ocean monitoring system using a climate satellite "Himawari"

\*嘉賀 雄一<sup>1</sup>、渡部 重十<sup>1</sup>

\*YUUICHI KAGA<sup>1</sup>, SHIGETO WATANABE<sup>1</sup>

1. 北海道情報大学

1. Hokkaido Information University

我が国において、少子高齢化の影響による第1次産業の跡継ぎ問題が深刻化している。離漁師が増加する一方、若者が漁師として定着していない。漁師の勤や長年の経験で行われていた（可視化できない）作業や知識を引き継ぎ出来ない現状がある。若者の漁師不足は日本の水産業を維持・発展する上で深刻な問題である。

地方の漁師の漁獲量の変化は大きく、また空振漁は燃料代の無駄になり、魚師の生活を圧迫しかねない。漁獲量は海上の風向・速度、海流の方向・速度、海水温、植物性プランクトンの分布状況に左右されている。これらのパラメータは、気象庁やJAXAが取得している膨大なデータ（ビッグデータ）から推定できる。しかし、漁師の期待に沿うようなデータではなくデータの扱いも困難である。

地方の活性化を図る目的で、iPadやiPhoneで日本近海の海況を監視できるアプリ（海況状況監視システム）を我々は開発を進めている。海況状況監視システムの実証を含め漁師関係者にお願ひし、海況データや漁獲量を収集・分析を実施した。本講演では、これらの解析結果を紹介する。

キーワード：気象衛星ひまわり、海況状況、ビッグデータ

Keywords: meteorological satellite "Himawari", ocean monitoring, big data